

目からウロコの英語講座シリーズ

なぜ？からわかる
英語入門

中級版

英語に強くなりたい
あなたへ…

英文の組み立て(文型)と
英文の「なぜ？」を知れば



その日から、英文法はあなたの最強の武器になります！！
<無料ダウンロード版>

考える学習をすすめる会
学陽舎塾長 城内 貴夫 著

このテキストの内容

- | | | | | | |
|-----|-------------|-----|--------------|-----|-------|
| 第1話 | 語順の話(五文型) | 第2話 | 動詞を述語以外で使う手段 | | |
| 第3話 | 冠詞(a,the)の話 | 第4話 | 助動詞の話 | | |
| 第5話 | 現在完了 | 第6話 | 比較 | 第7話 | 関係代名詞 |

考える学習をすすめる会

<http://www.kangaeru.org>

は・じ・め・に

私は中学・高校時代英語が^{にがて}苦手でした。でも、今は^{いま}苦手ではありません。それは、**なぜ？からわかる英語入門〔初級版〕**の後^{あと}書きで^ふ触れたように「**使える文法**」を持つことができたからです。文法の奥にある英語人の^{えいごじん}心^{こころ}を理解し、なぜその^{やくそくごと}約束事ができたのかを理解することで、英文を丸ごと覚えなくても済むようになったからです。

このメソッドは**なぜ？からわかる英語入門〔初級版〕**の^{あにきぶん}兄貴分です。ですから**〔初級版〕**を^{どくしゃ}マスターした^{そうてい}読者を想定しています。〔初級版〕では、それぞれに^{ふかい}深入りを避^さけました。この〔中級版〕では、精神は〔初級版〕と同じですが、より深くまで^ふ踏^こみ込んでいます。また、^{めいゆう}盟友 **Mr.KAZU(石田和彦)**の**〔上級英語ゼミ〕**への^{やくわり}つなぎの^{いしき}役割も意識しています。

私は^{がくしゃ}学者ではありません。だから、この^{ないよう}内容については^{がくもんてき}学問的には^{ひはん}批判の^{たいしやう}対象となる部分もあることでしょう。私はそんなことは^き気にしません。私の生徒のために、**私なりに理解した英語人の心**を^{えいごじん}解説し、私が昔^{あじ}味わった「**無味乾燥な、覚えるだけの英語地獄**」を、読者に^{じごく}味わせたくないだけです。

〔中級版〕では中2～高1の^{しょほ}初歩レベルまでを^{ねんとう}念頭におきました。第1話の「**五文型**」などは高1で^{あつか}扱われるものですが、私はなぜこれが中2くらいの^{とき}時に^{おし}教えてもらえなかったのか、^{ざんねん}残念でなりません。「**五文型**」を知っていたらもっと早く「**楽しく考える英語**」の世界に入り込めていたでしょうに。なぜなら、これがまさに^{やくそくごと}英語の^{しゅつぱつてん}約束事の^し出発点なのですから。そんな^{りゆう}理由から、私が英語に^{こうみょう}光明を見いだすきっかけとなった「**五文型の話**」を^あトップ・バッテリーに^あ挙げたのです。

中学生諸君、そして^{みだ}光明を見出せないでいる**高校生諸君**、学校で^{なら}習った・習っていないを^{もんだい}問題にせず、**すごい武器になる「五文型」**から^{ぶき}きっちり理解してしましましょう。

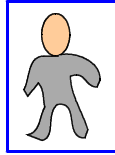
目次

第1話	語順の話 五文型	1
第2話	動詞を述語以外で使う手段	14
第3話	冠詞(a, the)の話	30
第4話	助動詞の話	43
第5話	現在完了	55
第6話	比較	62
第7話	関係代名詞	69

第1話 語順の話 五文型

英語人の思考の仕組み

まず主体(主語)

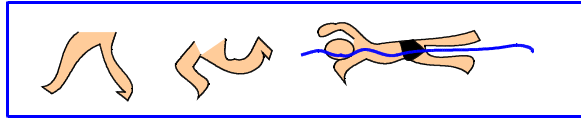


「話のテーマはオレ様だ！」

次に主体の述部(動詞)

(1) 自己完結型動詞... **be**(いる), **walk**(歩く), **run**(走る), **swim**(泳ぐ) など

の述べただけで文が終わってしまうもの。次に何も必要ない。



(2) 自己完結ではない動詞 次に何かが必要

その「何か」によって枝分かれ

へ

(自己完結ではない動詞 - その1) + 補語

動詞が = (イコール), (おおよそイコール)の意味を持つ単語のとき

... **be** 動詞 (**am, i s, are**(です)), **look**(見える), **feel**(感じる), **smell**(匂う) など

例えば

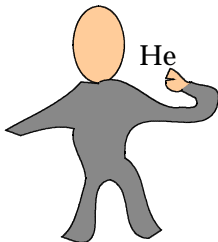
He is .

彼は (イコール)

で終わってしまったら...

聞いている側は「あれ？」と思うのでは。

「イコール何なんだ？」と言いたくなりませんか！



is =

これはちょうど「方程式」の型ですね。

右辺は...

He(彼)って、何だろう？

He から「he の何」がわかりますか？



「あれ?!、**heの何もわからない。これは大変だ!**」

つまり he は、ある**第三者の外形・シルエット**で、**he の持っている中身**は何もわかっていません。

実際の he は、**男性**、**背が高い**、**ハンサム(?)**、**20歳**、**親切** など、いろいろな**身分・性質**を持っていることでしょう。

だから、「He = 」と言うなら、「Heが何と = なのか」を**説明する義務**があるわけです。

He is **男性** a man
背が高い tall
親切 kind
...

但し、ここで言うイコールは**便宜的なもの**です。
そのわけは次ページで説明します。

絵がヘタでごめんなさい!

だから、**He is のあとは**、**he の中身**(主語自身)に戻ります。自以外の他に行かず、自で終わるので、このグループの動詞を「**自動詞**」といいます。そして、He の中身を補う言葉(a man, tall, kind, ...)を「**主語の中身を補う言葉(補語)** = 主語の補語」ということから、**主格補語**といえます。

(1)の自己完結型動詞は補語も必要としないので**完全自動詞**、ここでの is(=)は補語を必要とする、自分だけでは完全でないということで**不完全自動詞**といえます。**基本用語をしっかりと覚えてしまおう!**

〔コラム〕

【より高度を求めるあなたに - be 動詞の実態(意味)】

中学では be 動詞の意味として、

いる・ある(第一文型)、 です(第二文型)
まれに、 ~になる(第二文型)

の3つがある、と扱われます。

それぞれのつながりは無いように見えますが、同音異義語でない限り、
1つの言葉がそんなにたくさんの意味を持ったら、その言葉は死んでしま
います。私たちの会の英語の貴公子(?)Mr.KAZU(石田先生)が上級講座
でくわしく解説しますが、be の本来の意味は『存在』を表す言葉だったの
です。

英語人はきわめて自己主張の強い国民性です。

“ I am ! ” 「私は存在する(ここにこうして生きている)！」

これがすべての発想の出発点です。

それが日本語として訳す段階で、いろいろな表現に変えられてしまうの
です。

I am here. 私は / 存在している / ここに 私はここに**いる**。

I am a boy. 私は / **という存在である** / 少年 私は少年**です**。

I am beautiful. 私は / **という状態で存在している** / 美しい

私は**美しいです**。

、 のとき「です = 」としましたが、**数学的な意味ではイコールとは
言えません**。

a bなら、その逆の a bも成りたなくてはイコールは使えないからです。ところが、I a boy の逆の I a boy が成り立ちますか？

I beautiful が成り立ちますか？ 私の持っている1つの身分が「少年」というだけで、「少年すべてが私」とはなりません。だから前ページで『便宜』だとことわったのです。

或る人の説明では、I am in the park. まで「I = in the park という状態」とし、『この感覚をつかみましょう！』となっていました。こんなことまで=という便宜を拡大してしまうと、「in the park が補語」となってしまふではありませんか。in the park はもちろん前置詞があるので修飾語ですよ！ 本気で=だなんて思っていたら、文法がメチャクチャになってしまいます(文型の見抜きができない)。

方便や便宜は他の箇所で悪影響が出ない範囲で使いましょう！！

(自己完結ではない動詞 - その2) + 目的語

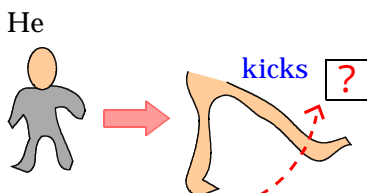
動詞が自以外の他を必要としたり、他に向かう動作を表す単語のとき
... throw (スロウな投げる), kick (キック けつとばす), love (ラヴ あい 愛する), eat (イートウ た 食べる), make (メイク 作る) など

たとえば He kicks . で終わってしまったら...

彼は けつとばすよ

聞いている側は「あれ？」と思うのでは。

「何を？」と言いたくなります。



何を = 目的物がなければ「蹴る」という動作になりません。足を振るという動作

自動詞の場合は「主語 + 動詞」だけで終わる(完全自動詞)か「主語 + 動詞 + (再び主語自体に戻って)補語」の形(不完全自動詞)でした。

ところがこの動詞は自に戻らないで「他」に向かう動作です。だから
他に向かう動詞ということで「他動詞」、そして動作の対象(目的物)となるものを「(動詞の)目的語」と言います。

もちろん他動詞にも完全他動詞と不完全他動詞の区別がありますが、それはのちほど「五文型」で...

以上がこれからお話しする「五文型」を理解するために必要な基礎知識です。

五文型

英語は語順について徹底した約束事でできあがっています。この点が日本語との大きな違いです。日本語では語順はそれほど重視されません。

それではなぜ英語では語順についてうるさく約束事をするのか？

それは1つには「は」とか「を」のような主語を示す助詞や目的語を示す助詞が無いこと、だから動詞(述語)の主体は何で客体が何ということ
は動詞を挟んだ語順で示すしかない。

また、2つには英語は徹底した「相手(聞き手)本位の言語だ」ということが言えるからでしょう。「情報を、相手がわかりやすい順に、せっかちに並べていく」と言ってい。

文の型は全部で5つしかありません。たった5つですよ！ だから英語を訳すにも、英文を作るにも、この5つの型をマスターしてしまうのが一番の早道なのです。高校1年の春に習うことですが、もしあなたが中学生なら「しめた、

みんなが知らない武器を、私は今手にすることができるんだ！」と喜んでください。これがわかると、「英語って日本語よりずっと単純じゃないか！」ということが実感できます。

用語の略語	
主語... S	サブジクト (subject)
動詞... V	ヴァ-ブ (verb)
補語... C	カムプラマンツ (complement)
目的語... O	オブジクト (object)
修飾語... M	マダファイア (modifier)
主格補語... SC	しゅかく
目的補語... OC	しゅかく
間接目的語... IO	かんせつ
直接目的語... DO	ちよくせつ

第一文型 [主語 + 動詞, S + V]

誰が、何が(主語) + ~するよ(動詞・結論部分)

アイ ラン I run.	私は / 走る
ヒー スリープス He sleeps.	彼は / 眠る
バーズ シング メリリ Birds sing merrily.	鳥たちは / 歌う / 楽しげに
あやか カン スウィム ファストゥ Ayaka can swim fast.	彩華は / 泳ぐことができる / 速く
ましゅ ゴウズ タ スクール Mashu goes to school.	ましゅは / 行く / へ : 学校
たつや ケイム ヒア Tatsuya came here	達也は / 来た / へ

can swim はまとめて動詞部分, 部は修飾語

主語 + 動詞だけで文が完成。一番単純な型。

修飾語は取ってしまっても文は成りたっている。

第二文型〔主語 + 動詞 + (主格)補語, S + V + C〕

誰が,何が(主語) + =, (動詞) + 主語の中身(主格補語)

シ - イズ ア ガール She is a girl.	彼女は / です / 1人の少女
ゆ み プリティ Yumi is pretty.	有未は / です / かわいい
Aya looks happy.	彩は / 見える / 幸せそうに
ザ フラウア スメルズ スウィートゥ The flower smells sweet.	その花は / 匂って感じる / 甘い(状態に)
She = a girl, Yumi = pretty, Aya happy	
The flower sweet	

主語が《どんな状態?》なのかを問題にしている型。補語が来なければ文が完結しない。この点で、取り払っても文としては成り立つ修飾語と区別される。

第三文型〔主語 + 動詞 + 目的語, S + V + O〕

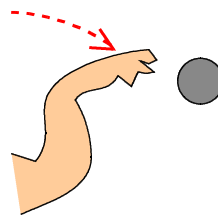
誰が,何が(主語) + ~するよ(動詞) + を(目的語 動作の目的物)

スピーク イングリッシュ I speak English.	私は / 話す / 英語を
あ や ロウトゥ レ タ Aya wrote a letter.	亜弥は / 書いた / 手紙を
み ほ イーツ アブル Miho eats the apple.	美帆は / 食べる / そのリンゴを
ごろうちゃん スル - ストウン Goro-chan threw the stone.	吾郎ちゃんは / 投げた / その石を

“throw, 投げる” という動作をしてみてください。

困るでしょう。困らなかった人は注意不足です。なぜならあなたがしたのは「腕を振る」という動作で、“投げる”ではありません。「投げる物」があって、

それを手から離さなければ“投げる”になりません。
 賢明な読者はもうお気づきのよう、動作によって
 は「何か」が無かったり「相手」がいなかったりする
 とできないものがあるのです。



第三文型で使う動詞はすべてこれです。この「何か」を動作の対象物・目的物ということで目的語と言います。主語の内容を補う補語とは違いますね。

誰が・何が？

どうしたの？

何を？

を問題にした型

Gorochan

threw

the stone.

英文で一番多いのが、この第三文型です。

第四文型〔主語 + 動詞 + 目的語 + 目的語, S + V + IO + DO〕

誰が,何が + ~してあげるよ + に + を

(主語)

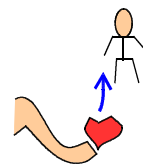
(動詞)

(人【間接目的語】)

(物・事【直接目的語】)

ゲイブ ユー ワッチ I gave you a watch.	私は / あげた / あなたに / 1つの時計を
まみ メイドゥ ヒム ケイク Mami made him a cake.	真美は / 作ってあげた / 彼に / 1つのケーキを
なな ティーチズ ゼム マス Nana teaches them math.	奈南は / 教えてあげる / 彼らに / 数学を
タム トウルドゥ ハー ストーリ Tom told her the story.	トムは / 話してあげた / 彼女に / その物語を

“give, 与える”という動作をしてみてください。



今度はひっかかりませんでしたね。「与える物」があって、そのほかに「与える相手」がいて、この2つがそろって初めてできる動作です。

この第四文型の動詞は「~してあげる・~して与える」というニュアンスが強

い内容を持つ動詞です。だからこの型で使う動詞を**授与動詞**と言います。

「与える相手」・「与える物」共に動詞の動作をするのに欠かせないものなので、この2つとも目的語です。与える相手を**間接目的語**(IO), 与える物を**直接目的語**(DO)とっています。

目的語が2つあるので、この2つをどのような順に並べるか**約束事**として決めておかなければなりません。英語には「**に**」「**を**」にあたる言葉が無いから、**順番の約束**で決めるしかないんです。そこで、

【約束事】... 授与動詞 + 【相手(人)】IO 【物】DO の順

誰が?	どうしてあげたの?	誰に?	何を?	を問題にした型
Ayu	made	him	a cake.	

約束違反の書き方をした場合

Ayu	made	a cake	him.	と書くと、
あゆは	作ってあげたよ	ケーキに	彼を	

となって、作られた物が「彼」。もらった人が「ケーキさん」ということになります。日本語は「**に**」「**を**」という言葉(助詞)があるので順番を変えても意味が変わることはありませんが、英語では「**に**」「**を**」にあたる言葉がないので、**順番を約束事に**しなければならいんです。

でも約束違反の書き方をしたい場合

Ayu	made	a cake	for	him.
S	V	O	M	
あゆは	作ったよ	ケーキを	のために	彼

このようにすれば OK です。ただし、**前置詞を何にするか**というめんどうなことを考えなくてはなりません。

また、for him は前置詞がついたので修飾語扱いになって、これは**第三文型の文**に変わったことになります。

〔第四文型 第三文型の書き換え〕

I gave you a watch. I gave a watch to you.
 Nana teaches them math. Nana teaches math to them.
 Tom told her the story. Tom told the story to her.

また、この型で使われる動詞は、2つとはいっても**目的語だけで済むので完全他動詞**です。

第五文型〔主語 + 動詞 + 目的語 + 目的補語, S + V + O + OC〕

誰が,何が(主語) + ~するよ(動詞) + を(目的語) + に,と(目的補語)

スィンク	ヒム	グッドゥ	ティーチャ	
I	think	him	a good teacher.	私は / 思うよ / 彼を / いい先生だと
サン	キープス	アス	ウォーム	
The sun	keeps	us	warm.	太陽は / 保つよ / 我々を / 暖かいに
シー	メイドゥ	ハー	サン	ダクタ
She	made	her son	a doctor.	彼女は / 作り上げたよ / 息子を / 1人の医者
まゆみ	メイクス	ハッピー		
Mayumi	makes	us	happy.	麻友美は / 作り上げるよ / 私たちを / 楽しいに

him = a good teacher, us = warm, her son = a doctor,
 us = happy

最初に主語・動詞がきて、次に目的語がくる点では第四文型と同じですが、その**目的語の次には目的語の内容がどうなのかを補う語**がきます。目的語を補い説明しているのが、**目的補語**と言います。

誰が?	どうしたの?	誰を?	何に,何て?	を問題にした型
I	think	him	bad.	私は彼が悪いと思う。
		思う対象	その対象の内容	
(書き換えると) I think that he is bad.				

以上が五文型です。^{いっけん}一見^{ふくざつ}どんなに複雑に見える文でも、英文は必ずこの5つの文型のどれかに^{ぞく}属しています。複雑に見える長い文は修飾語がついたせいなのです。だから、修飾語がついている場合には、それらをすべて取り去ると、型が見えてきます。

ここで扱った主語・動詞・補語(主格補語, 目的補語)・目的語(間接目的語, 直接目的語)は、その文型の中ではどれ1つ欠けても文にならないので、^{こっかく}英文の骨格と言えるでしょう。そして、それにつけたそれぞれのアクセサリーが修飾語、なくても良いものです。

1つの英文をS,V,C,O,Mに^{ぶんがい}分解し、五文型のどの型の文なのかを^{いしき}意識すると、文の^{せいかく}正確な訳ができるようになるし、また単語の^{なら}並びかえ・英作文にとっても強くなります。**単語の並べ方を理屈でわかる**ということはまた、**ふだんの勉強で英文をいちいち覚えなくても、単語を覚えればそれを理屈にあてはめて文にすることができる**ということです。これだけでも英語の勉強時間(覚える時間)を大幅に^へ減らすことができるということになります。

「理屈(文法)」は「覚える量を減らす」ための^{ぶき}武器なのです。

【問題 1】 次の英文をS,V,C,O,Mに分類し、第何文型か答えなさい。

They study hard.

You look very ^{プリティ}pretty.

He ^{トウルドゥ}told me the ^{ウェイ}way to the ^{ステーション}station.

We ^{ラブ}love the song.

His father ^{ネイムドゥ}named him Tom.

〔問題 2〕日本文に合うように、()の単語を並べかえなさい。

彼は私を愛している。(he, me, loves)

私は昨日東京へ行った。(I, yesterday, to Tokyo, went)

彼女はその花をバラと名づけた。(she, the flower, rose, named)

私は彼に私のハートをあげた。(I, him, my, heart, gave)

私は今、名古屋にいる。(I, now, Nagoya, in, am)

解答は次ページ

〔問題 1〕解説・解答

They study hard. 【第一文型】
S V M 彼らは / 勉強する / 熱心に

You look very pretty. 【第二文型】
S V M C あなたは / 見える / とても 可愛い(状態に)

He told me the way to the station. 【第四文型】
S V IO M DO M 彼は / 話した / 私に / その 道を / への ・ その 駅

We love the song. 【第三文型】
S V M O 私たちは / 愛している / その 歌を

His father named him Tom. 【第五文型】
M S V O OC 彼の父は / 名づけた / 彼を / トムと

〔問題 2〕解説・解答

彼は私を愛している。(he, me, loves)

He loves me. 彼は / 愛しているよ / 私を

私は昨日東京へ行った。(I, yesterday, to Tokyo, went)

I went to Tokyo yesterday. 私は / 行ったよ / へ ・ 東京 / 昨日

彼女はその花をバラと名づけた。(she, the flower, rose, named)

She named the flower rose. 彼女は / 名づけたよ / その花を / バラと

私は彼に私のハートをあげた。(I, him, my, heart, gave)

I gave him my heart. 私は / あげたよ / 彼に / 私のハートを

私は今、名古屋にいる。(I, now, Nagoya, in, am)

I am in Nagoya now. 私は / いるよ / に ・ 名古屋 / 今

無料ダウンロード版はココまでです。続きは有料版をごらんください。